

平成 28 年度第 1 回大阪府立泉北高等学校学校協議会

1 日時：平成 28 年 7 月 13 日（水）15：45～17:00

2 会場：本校会議室

3 出席者 <委員>

山下 勝己氏（大阪府立大学工学域長）、泉川 敬介氏（堺市立若松台中学校校長）、中村 俊一氏（立志館ゼミナール館長）、森崎 幸子氏（泉北高等学校後援会 会長）

4 挨拶 校長

- ・本日は平成 28 年度学校経営目標に加え、今年度の主に取り組む内容についてご説明させていただきます。忌憚のないご意見とご助言をいただきますよう、よろしく願いいたします。
- ・2020年の指導要領の変更に向けて、経営計画の変更を行った。大きな変更点は、校内の分掌にグローバルキャリア課を置き、生徒のグローバルなキャリア観の育成に力を入れることを掲げた。
- ・可能な限り、経営指標としてはエビデンスの検証を取り入れていくことが大切と考えている。たとえば、後程話にでる SGH などの計画立案及び実施の例などがわかりやすいと考えている。

5 本年度の学校経営目標とその取り組みについて

① 公立高校入試選抜について（教頭より）

- ・前期選抜のみの入試から、帰国生対象の前期選抜とその他の生徒対象の後期選抜の入試を実施した。
- ・昨年は英国数の3科目入試から、5科目入試となったが、今年度から英語の学力検査の形式が大きく変わり、外部試験資格を導入することになった。
- ・調査書の評価が10段階の相対評価から5段階の絶対評価になり、2年生の評価も入試に取り入れられることになった。
- ・今年度もアドミッションポリシーに対する自己申告書を受験生が提出する。

② 平成 27 年度学校評価及び平成 28 年度学校経営計画について（教頭より）

- ・時代に合った教育や生徒の環境に合った取り組みを行ってきた。中には完全に達成できなかった項目も昨年度に比べて増えているところもあるが、例えば進路実績などについて指定校や難関私立大への進学が増えていることから、必ずしもマイナスの評価ととれないと考えている。
- ・グローバルキャリア委員会を新設し、留学希望者が増えている。文部科学省推奨の取り組みであるトビタテ！JAPANの留学促進事業に本校から11名が応募し4名が合格した。大阪府立高校では最多の合格者数である。合格者は語学だけでなく、個人の関心事を探究する目的をもって留学する。私費で1名がカナダに、1名がスウェーデンに留学する予定である。
- ・「骨太の英語力養成事業」において TOEFL iBT で高得点を獲得できる生徒を育成するための取り組みである「ACT」という授業をスーパーイングリッシュティーチャーによって実施している。

②各分掌等の取り組みについて

1) 教務部の取り組みについて（教務部長代理より）

- ・教科書の選定作業において、どのように選定したかを各教科で議事録を作成し、教職員で共有できるようにしている。
- ・5月の土曜日と6月の平日に授業公開を行ったが、6月の平日の参加者が少なかった。今後はどのような日程で平日にすれば参加が増えるかを検討していきたい。

2) 生徒指導部の取り組みについて（生徒指導部長代理より）

- ・あいさつ、掃除、マナーの向上を3本柱に取り組んでいる。
- ・他者への配慮ができる優しい気持ちを持った生徒の育成に取り組んでいる。
- ・自転車の乗車規則を遵守できるように指導している。
- ・遅刻の防止と時間を守る習慣を身に付けさせるために、学年で重点的に取り組んでいる。

3) 進路指導部の取り組みについて（進路指導部長より）

- ・進路システムの導入を行って、3年生担当教員を中心に進路指導を行えるように整備している。
- ・1年生には卒業生に大学受験の様子、2年生には大学とはどういうものか、3年生には希望する大学の説明会を校内で実施している。
- ・模擬試験は河合塾などの案内や、ベネッセの進研模試は3年生全員に受験させている。
- ・センター試験の受験生は昨年度減少したが、国公立の合格者は1昨年度より増えた。国公立の推薦入試などを使って進学した生徒が多かったことも影響している。難関私立大学の合格者数も増え、浪人生の数が減少した。

4) 保健部の取り組みについて（保健部長より）

- ・生徒が健康に安全に学校生活を送れるように努めている。
- ・清掃の徹底を実施している。B棟のトイレが今年度改修される予定である。
- ・教員及び生徒対象の救急措置講習を実施している。
- ・防災訓練は雨天で時間がかかってしまったため、秋の防災訓練は早く避難完了できるようにしたい。
- ・防災対策として、かかとのついたスリッパに変更し、机の横に体育館シューズを掛けて有事の際には着用して安全に避難できるように指導している。

5) 国際総務部の取り組みについて（国際総務部長より）

- ・生徒手帳を廃止し、泉北生の手引きを配布するように変更した。今後は内容の充実を図っていきたい。
- ・42名の参加で大学見学会をPTAで実施した。
- ・グローバルキャリア課が留学に出る生徒、国際総務部では本校に留学に来る生徒を迎えるよう役割分担をしている。5月にモスマン高校の生徒をホームステイや文化体験などを実施して受け入れた。現在、ドイツ、チェコ、イギリスから3名をロータリーから受け入れを行っており、交換留学として本校の3名がそれぞれの国に3週間留学する予定である。

6) 図書情報部の取り組みについて（図書情報部長より）

- ・読書週間を設けて、図書館の利用促進の取り組みを行っている。
- ・国語科の協力を得て、校内読書感想文コンクールを実施している。

- ・教員や生徒の図書だよりの発行を行っている。
- ・特設コーナーを図書館においている。
- ・IT化の促進に力を入れている。

7) 広報部の取り組みについて（広報部長代理）

- ・学校新聞「月泉」で学校について知ってもらえるように配布している。
- ・国際交流や学校行事をHPに掲載してニュース発信を行っている。
- ・オープンスクール及び2回の学校説明会を実施する。
- ・メールマガジンの発行を行い、保護者への情報提供の充実に努めている。

8) SSHの取り組みについて（SSH主担代理より）

- ・今年度の事業計画は基礎枠のみで実施する。
- ・6月に課題研究発表会を大阪府立大学で実施した。2年生は各班のテーマが先日決定し、課題研究を始めている。
- ・海外研修はオーストラリア海外研修を本校生徒のみで実施し、ボルネオ海外研修はSGH事業と共同で行う。
- ・小学生対象の科学講座は基礎枠予算で継続する予定である。
- ・次期SSH申請に向けて、次の学習指導要領の内容を踏まえて主体的に問題解決に臨む力などを鍛える仕組みを内容に盛り込むことができるように校内で検討している。

9) SGHの取り組みについて（SGH研究主担より）

- ・今年度から「グローバル課題研究I」が始まり、2年国際文化科160名全員が先日研究テーマを決定した。
- ・「グローバル基礎」では課題研究を1年次より始める取り組みで、8名が登録している。各自がテーマを決めて、桃山学院大学経済学部教授の中村勝之氏の指導の下、研究を進めている。
- ・8月にはボルネオ海外研修、3月末には北欧・リトアニア・プロジェクト型海外研修を実施する予定である。
- ・2月11日（土）に桃山学院大学において国際理解・科学フォーラムを開催する予定である。

6 協議

（委員）アドミッションポリシーは点数よりも結果が変わってくることはあるのか？大きく変わることはあるのか？

→（学校）府の指針に従って決定している。アドミッションポリシーによって入学する場合もある。

（委員）第2希望への合格者が出ていると思うが、倍率はどうだったか？

→（学校）倍率は低くなったが、本校の人気の大きさが下がったとは思っていない。

（委員）昨年度の入学生と比較して、今年度の入学生の能力に違いがあるか？

→（学校）比較は難しい。

（委員）英語の外部試験の導入は今年度から導入か。スコアの換算は公表するのか。

→（学校）今年度からの導入で、スコアの換算は大阪府のホームページで公開されている。

（委員）府立高校全部が英語の外部試験を入試に導入するのか。

→（学校）その通りです。

(委員) グローバルキャリア課とは何か？

→ (学校) 校内の分掌で委員会と呼んでいる。主に海外留学や海外進学を促進をめざしている。

(委員) トビタテ！JAPAN で不合格だった学生はどのようにされているのか？

→ (学校) 不合格だった生徒のうち1名は自費で1年間の留学を予定している。

(委員) 何か月くらい留学するのですか。

→ (学校) 1年間留学し、帰国後単位認定を行って進級する。

(委員) スーパーイングリッシュティーチャーというのはどんな先生か。

→ (学校) TOEFL の得点に目標を定めて、任期付で生徒の指導にあたり、校内の英語科教員のスキルアップの任務を行っている。

(委員) トビタテ！JAPAN で目的意識を持って留学する生徒が帰国したときには、自信をもって自分の経験を後輩たちに話してもらって伝統を作れば、あこがれて目標にして頑張る後輩ができるのではないかと。留学する生徒には経験をしっかり記録に残して帰国するように指導してはどうか。

(委員) トビタテ！JAPAN への応募をもっと勧めていけば、他の生徒への影響ももっと大きくなってよいのではないかと。

(委員) 学校評価で△の評価になっているものを○をめざして努力するということなのか。

→ (学校) そのように教員一丸となって取り組みたい。

(委員) 教員同士の公開授業はあるか。観察した授業のフィードバックを行っているか。継続的な取り組みか。

→ (学校) 1学期に1度実施しました。授業担当者には観察者のフィードバックは行っており、継続的な取り組みである。

(委員) 遅刻の防止などは資料にはないようであるが？

→ (学校) 本日は口頭での説明であるが、経営計画に盛り込んでいく予定である。

(委員) 自転車の保険などの扱いはどうしているか？

→ (学校) 全員の生徒に自転車保険の案内をすでに行った。

(委員) 関大や近大をめざす生徒が多いようならば、最低でもこれをこの時点まですべきだということを各教科で提示できるようにすれば目標達成にはよいのではないかと。家庭での学習時間の項目が平成28年度から削除されているが、家庭で1時間以上学習する習慣が進路実現には非常に重要であると思う。スマホの誘惑に勝たせて家庭で勉強させるためには、明確にどういった内容を勉強すべきかを各教科で示す必要があると思う。また、ライバル心や憧れの存在を作ることにも勉強への意欲につながると思う。

(委員) 泉北高校を希望する生徒は毎年たくさんいる。今年度も8名が入学した。今年も多くの希望者が見込まれる。親近感のある身近な学校であり、保護者からの信頼も厚いようだ。

7 提言

後期入試になり、従来通りの学校のランク付けは存在するようである。泉北高校のSSHやSGHの取り組みは大変ユニークであり継続すべきであるが、もっと広報を行っていけばよいのではと思う。SSHやSGHに取り組んだ生徒が進路実現を多くできるようになれば、逆転現象も夢ではないと思われる。多くの事業の中で選択と集中も大事であると思われるので、何か目玉になるような事業があっても

よいと思う。文部科学省がこれから求めていこうとしている学生像を早くからめざして取り組んでいるので、ぜひ持続して取り組んでほしい。広報をうまくすることも重要であると思われるので、さらなる工夫によって発展していくのではと思う。